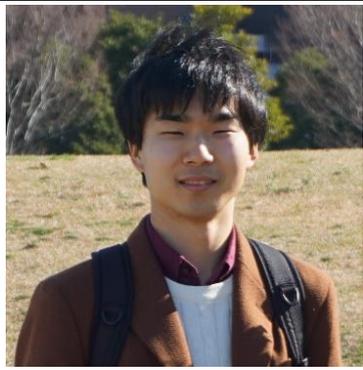


ふりがな 氏名	おおやま よしと	都道府県	東京都	
	<b>大山 義人</b>			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境省地球環境局総務課脱炭素化イノベーション研究調査室 係員</li> <li>東京農工大学大学院農学府国際環境農学専攻修士</li> </ul>			
関心・活動のSDGs	  			
私のESD活動	<b>幼稚園生からお年寄りまでのあらゆる人を対象とした環境問題啓発活動</b>			

## 活動の概要

大学では環境サークルに所属し、学内のごみの削減、家電家具のリユース、児童向けの環境教育を行ってきた。学祭では出店から出る生ゴミを全て、また使用する食器類も可能な限り土にすき込むことで堆肥化を行った。また、地域の市民の方から使わなくなった家具家電を回収し一人暮らしの学生へ格安で販売することで、数年間という限られた期間だけのために家具家電を買いそろえて処分するという、資源有効活用の面から問題のある流れを断ち切ってきた。さらに、学内だけでなく市民環境祭りではレンジャーショーを実施し、児童にわかりやすくごみ削減の重要性を伝えてきた。

環境省職員としては、地球温暖化啓発のDVD・パンフレットの作成・配布、国際会議のアテンド、推進費の運営を行っている。近年、家庭からの温室効果ガス排出量の増加傾向が確認されており、国民一人一人の意識向上・取り組みの重要性が増している。そのため地球温暖化啓発の映像やパンフレットを作成し、DVD やインターネット上でも公開している。夏休み期間に学生を対象として普及啓発パンフレットを配布したり、実際に学生さんにお越し頂いて質疑応答などの対応も行っている。また、本年は5月に京都で IPCC 総会が開催された貴重な機会があり、円滑な会の進行と日本のプレゼンスを高めるためにアテンドを行った。さらに環境問題解決の知見を集めるために推進費という形で研究者の資金的なバックアップ事業も行っている。

- ・ごみダイエツ NOKO <https://sites.google.com/site/gomidietnoko/home>
- ・環境省 HP <http://www.env.go.jp/index.html>

## 私が考える教育の未来像

社会の動きを「自身のこと」としてとらえて行動を起こすことができる人が求められていると考える。昨今、ミャンマーでの人権侵害や海のプラスチック汚染など、人権・環境などに関わる社会課題が大きく取り上げられている。しかし、日本の中ではさほど重要には受け取られておらず、むしろ距離の離れている欧米の方が解決のムーブメントが大きい。

これから在留外国人がますます増加し、気候変動対策が強く求められていく中、人権も環境も人ごとでは全くなく、自らが抱える課題として捉える必要がある。これからは例え海外の事案や遠い場所で起こっている課題に対し、自分事として考えて行動できる人を教育を通じて輩出していくべきだと考える。

## 私の強み、活かせる経験やスキル

私は「自分の役割をその場に応じて変化させること」ができる。

幼い頃転勤族として全国を転々としてきた私は、所属するコミュニティへの順応力を身につけることができた。学生時代に所属していた2つの団体では異なる役割を果たし、円滑かつ活発な活動に寄与した。所属していた学生環境団体では新しいことにチャレンジしたいという代表者に対して、メリット・デメリットや大きな方向性を確認させることで、実現性を担保した。一方、2つの大学合同の合唱団体では、70名を超えるメンバーの多様な考えが存在し、団長として意見の吸い上げと調整に尽力した。様々な人々が集まる本カンファレンスにおいても参加者に応じた自分の役割を見つけたい。